

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105487
法人名	医療法人 福井整形外科・麻酔科
事業所名	グループホーム杜の里
所在地	松山市鷹子町185番地1
自己評価作成日	平成22年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当グループホームの基本理念である「あせらず あわてず あきらめず」「手の届く 目の届く 心の届く生活を支援します」を大切に、職員が一丸となって、利用者様と真の家族のような信頼関係が築けるように日々を過ごしています。協力医療機関が母体である為に、日常的な健康管理に対してのバックアップも安心でき、最後までお付き合いができるように介護技術の向上を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●テーブルの上には、コスモス等の季節の草花が生けられていた。壁には、季節ごとに、行事や外出時の写真を大きくプリントして貼ってあった。2階ユニットには、水槽に金魚を飼っておられ、利用者が餌やりをされることもある。1階ユニットでは、新聞を読まれる利用者が小さなホワイトボードに、その日、気になったニュースを書いており、調査訪問時は、「チリ落盤事故70日目」等と書かれてあった。利用者は、午前中はテレビを見て過ごされることが多いが、一日のうちに少しでもお手玉や風船を使って、レクリエーションを行う時間を作られている。訪問者用のスリッパは、子供用のスリッパも用意されており、汚れた物は取り替えるようにされている。
●週に1度、ご家族と外食され馴染みの美容室へ行かれる方や携帯電話をご自分で持ち、お好きな時にご家族や友人とお話されている方もある。又、手紙のやり取りをされる方を職員がサポートされている。利用者の親族が亡くなられた時には、職員が同行して葬儀に参列された。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

[記入方法]

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名

グループホーム杜の里

(ユニット名)

こもれび

記入者(管理者)

氏 名

佐伯 伸治

評価完了日

平成 22 年 10 月 1 日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 「あせらず あわてず あきらめず 目の届く 手の届く 心の届く 生活を支えます」という理念に対して意識はあるが、実践できていない場面もある。 理念を忘れないようにユニット内に提示しており、共有できている。	
			(外部評価) 事業所では、パンフレットの中で理念について説明され、利用者が「地域の一員として」その人らしく暮らしていけるよう、支えていくことを示しておられる。管理者は、地域の方が「入って来やすい事業所作り」をすすめていくために「ホーム側から地域の方に声をかけていくことが大事」又、地域に対して「何かできることがあれば力になりたい」と話しておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 盆踊りや学校の文化祭など地域行事にも参加の機会があれば参加しており、ホームでも5月にバザーを開催し、地域の方々にも参加していただいている。	
			(外部評価) 事業所で毎年行われる5月の恒例のバザーには、今年も多く地域の方が来られた。バザーでは、民生委員の方がお茶席を催してくださったり、大学の吹奏楽部の方達の演奏を利用者とともに楽しまれた。地域の夏祭りに出かけた際には、利用者はフラダンスの出し物を楽しまれたり、ヨーヨー釣りもされた。	現在、事業所の畑で採れた野菜等をご近所の方におすすわけする等、地域の方とのかかわり作りに取り組まれている。運営推進会議等、地域の方とのつながりをきっかけにして、地域のいろいろな方に訪ねて来てもらえるような事業所を目指して、具体的に取り組みをすすめていかれてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 包括支援センターの協力を得て、地域の方々に対して、認知症サポーター養成講座を開催し、理解を得る機会を設けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議を通して、日常的な地域の方との交流を含め、様々な意見を聞く機会になっている。行事を開催したり地域行事に参加するに当たって、地域に根ざした運営に反映出来るようになってきていると思う。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(外部評価)	
			会議では、外部評価の結果を報告されたり、町内会長から「認知症について知りたい。」との要望があり、認知症サポーター講座を開催された。又、地域の「福祉部」の方からは、2ヶ月に1度公民館で開催している「子供と母親の交流会を事業所で行ってみたいかどうか」との提案をいただき、ケアマネージャーが交流会を見学に行かれた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			ミーティング時に身体拘束について勉強会を開き、学んでいる。できるだけ、身体拘束をしないケアの実践が必要だが、危険が伴う場合は危険防止を優先している。	
			(外部評価)	
			調査訪問時、玄関は網戸になっており、出入り時にはセンサーが作動して鳥の声が聞こえるようになっていた。外に出たい方には、一日に何度も職員が同行されたり、ご本人の体調等も見ながら、場合によっては、気持ちを逸らしてもらえよう対応されている。現在、ベッドからの転落防止のため、ご家族の同意を得て、ベッド柵を使用している方がおられる。	現在、ご本人の状態も安定してきたこともあり、柵を外すことも検討されていた。拘束について、職員で勉強されたり、ご家族も共に拘束をしないケアの工夫等についても話し合いを重ね、実践に向けて取り組みをすすめていかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ミーティング時に勉強会を開き、学んだ。学んだことを意識し、注意を払い防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度について学び、よく理解した上で必要性のある個人に対して活用し、援助できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は、契約書に沿って分かりやすく丁寧に説明を行っている。その都度いろいろなことを相談できるような関係作りに努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議や日常の面会の機会に、ご家族からの要望が聞きだせるように声かけを行っている。要望に対してはすぐに反映、解決できるようにしている。 (外部評価) ご家族には毎月、行事時の様子や利用者の表情がわかる写真を多く載せた「杜の里だより」を郵送されている。又、ご本人の様子や暮らしぶりを書いた手紙も同封されている。利用者の身体に変化が見られたら、ご家族に電話連絡されているが、時にご本人の対応等に追われ事後報告になることもあるようだ。介護記録の提供を希望されるご家族には、日々の経過記録である「24時間生活変化シート」をコピーして渡すようにされている。	事業所では、行事や運営推進会議に参加いただけるようご家族へ案内を郵送されているが、現在、参加いただけるご家族は少ないようだ。さらに、ご家族が参加しやすい運営推進会議となるよう工夫されたり、会議の様子や会議の内容についても全ご家族に知らせていかれてほしい。又、事業所の普段の食事を食べていただきながら食事支援についてのご意見をうかがったり、入浴や外出支援、又、日中の過ごし方等、事業所の取り組みや支援をさらに具体的に知ってもらいながら、ご意見をうかがってみてはどうだろうか。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 全体の運営に対しての個々の職員の意見や提案を提供する機会があるとすると、月1回のミーティングの際だろうか もっと細々としたシフトの変更等に関しては、各々その都度に責任者・管理者に相談している。 (外部評価) 職員の手不足等の理由から1階ユニットの昼食は、週2回仕出し弁当になっていたが「手作りのものを食べていただきたい」という1階ユニット職員からの意見等もあって、2階ユニット職員が1階ユニットの昼食作りに協力されるようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の努力や実績・勤務状況を代表者や管理者はたぶん把握されている事だろう。また、職員各々の家庭の事情に応じて、出来る限り勤務日数・勤務時間・夜勤の有無他、希望に応じてもらっていると思う。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 年間を通じて様々な介護に関する研修に数多くの職員を派遣してもらっているの、現場に活かせる事が出来ればと思う。 また、資格取得のための事務手続きを管理者が速やかに行ってくれている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) グループホーム同士の相互評価を毎年行っている。 社協や包括センター主催のグループホーム連絡会に一般の職員が参加し、勉強する機会もある。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) サービス提供前に、利用者様としっかりと面談を行い、不安なく生活の場所が移動できるように努めている。また、これまでの関係者の方にも協力が得られるような連携作りを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス提供前にご家族ともゆっくりと面談する時間を持ち、グループホームでどのように生活していくのかを十分に話し合いように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時に、必要な場合はグループホームの事だけではなく、必要なことについての相談が出来るように支援している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の方を真の家族のように思う気持ちで職員は業務にあたっている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会に来て下さる御家族の方も多く、一緒に散歩や外食に出かけており、家族間の絆も大切にし、職員と共に支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) 利用者が昔住んでいた場所にドライブに行ったり、昔のアルバムを一緒に見るなど支援に努めている。 (外部評価) 週に1度、ご家族と外食され馴染みの美容室へ行かれる方や携帯電話をご自分で持ち、お好きな時にご家族や友人とお話されている方もある。又、手紙のやり取りをされる方を職員がサポートされている。利用者の親族が亡くなられた時には、職員が同行して葬儀に参列された。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者や職員も交えて歌を歌ったり、風船で遊んだり、孤立しがちな利用者にも声かけをし、皆で関わりあえるように努めています。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退居後も状況に応じて相談できる関係作りに努めている。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) できる限りご本人の希望に沿ったケアに努めており、又、ご本人からの言葉を記録にとり、思いや暮らしの希望の把握に努めている。 (外部評価) 日々の経過記録である「24時間生活変化シート」に、ご本人の言葉や職員の気づきを記入して利用者ご本人の思いの把握に努めておられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人との会話や、ご家族からの情報で、どのような生き方、暮らし方をしてきたのか把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 24時間シートを利用し、一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			御家族の考え方は現場に100%聞くことはできない気がしますが、ご本人のために良い方向で意見を出し合い、アイデアを反映された介護計画だと思います。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(外部評価)	
			3ヶ月毎の介護計画の見直し時には、支援内容について職員全員で意見や気づきを書き出して評価されており、さらに、現在のご本人の希望やご家族の要望を聞き取って、ケアマネージャーが新たに介護計画を作成されている。利用者個々について「重要と思われる支援」を一つ採り上げ、毎日モニタリングを行っておられ、実践状況を確認できるようにされている。介護計画書にはご家族の希望を記入する欄を設け、計画に反映できるようにされている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			利用者様の意見を大事にグループホームの中だけにとらわれず、友達と外出したり、温泉施設を利用しに行ったりと柔軟なサービス提供ができるようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			町内の方のご協力で、子どもたちと触れ合える機会が持てるように交流を進めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 入所前から通っていた病院に今でも定期的に通院され ている方もおり、また定期的な受診や往診が出来てい ると思う。 急変時において、専門医に受診し、適切な医療が受け られる支援により取組んでいきたい。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が母体医院がかかりつけ医となっ ているが、以前からかかっている病院を受診される方も あり、ご家族が付き添ったり職員が同行されている。 母体病院からは2週間に1度往診があり、投薬につい ては、1週間に1度行われている。又、週に1、2回母 体病院にリハビリに行く方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 週一度の訪問看護の時にはスタッフが報告できてい ると思います。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者さんが入院した際、安心して治療して、出来 るだけ早期に退院できるよう週一回のナース訪問や月二 回の往診時などで話し合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 2階では終末期の話し合い、医療や地域の支援による 最後を迎えられた人はいるが、1階ではまだいないの で、不安はあります。	
			(外部評価) この1年間に入居された利用者には、ご家族に重度化 した場合や看取りについて事業所でできることを説明 して、ご家族の希望を聞くようにされている。事業所 での看取りを希望されるご家族もあり、事業所では緊 急対応マニュアル等でいざという時の対応を確認して おられる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急の対応のマニュアルを作成したのを見たり、ミーティングで応急手当の仕方を勉強している。急変時の対応の本があり、夜勤の時など見て勉強している。台所に緊急時の対応の仕方のコピーが置いてある。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回、避難訓練を行っており全職員が避難誘導できる方法を身につけるよう努力している。避難訓練を実施して2階の方は車椅子の方が多いので、毛布や布団でつつみ、階段をすべるように運び、避難場所へ誘導する。 (外部評価) 今年10月に消防署の協力を得て、昼間1階からの出火を想定して、利用者も全員参加して避難訓練が行われた。2階からの避難は、外階段で布団や毛布を使って避難させる方法を訓練された。管理者が利用者役になり体験されたが、体への衝撃が大きいことが分かり、担架の購入を検討されていた。スプリンクラーは、来年度中に設置する予定になっていた。	夜間想定や火災以外にも地震等にも備えられたり、いろいろな場面を想定した訓練等も重ねていかれてほしい。さらに、いざという時に協力してくださる地域の方を増やし、地域との協力体制等も築いていかれてほしい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 人生の先輩であることをいつも頭に入れ、体験などの話しは素直に聞かせて頂き、時々ずれがあっても否定せず、誇りやプライドを損ねないよう言葉かけや対応が出来るよう努力している。 (外部評価) 職員は、「トイレに行けますか。」と利用者の耳元で声かけをされていた。利用者が、トイレの戸を開けたまま使用されようとしている時は、職員がそっと戸を閉めておられた。利用者が毎朝顔を洗えるように職員はサポートされており、ベッドで過ごしている利用者には、職員がおしぼりで顔を拭くようにされている。	職員の利用者への対応や言葉かけ等については、勉強会を重ねられたり、時には点検するような機会も作っていかれてほしい。たとえば、ご家族のご意見を聞くような機会を作ったり、来客者から感想を聞く等、いろいろな人の意見をうかがい、それらをきっかけにして取り組みをすすめていかれてはどうだろうか。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員の都合で決定してしまわないよう ・水分補給時の好み・トイレ時の声かけ・入浴時の声かけ・外出時・食べ物への希望 等を差し支えない程度の声かけをして、自己決定して頂くようにしている。日頃の話の中から聞き取り、家族さんへ希望を伝え、叶うよう努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物に行く時などは希望がある方は一緒に出かけている。その日の体調に合わせて無理なく部屋で休んでいただいたり、1対1で話ができる時間を優先するよう努力している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 着替えの時など洋服を見て頂き、声かけをしてから選んでいただいている。トイレなどで鏡の前に行かれたときには、髪を直す、顔色・表情の事などを話し、身だしなみやおしゃれへの感心を持っていただけるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 出来る時には野菜を切ってもらったり、準備を手伝ってもらい食べる楽しみにもつながるよう努めている。その日のメニューから「どここのお店もおいしいね」「今の季節はこれ食べないかんね」など楽しみながら話を膨らませ、話しから次の食べたいもの、楽しみへとつなぐ努力をしている。	
			(外部評価) 冷蔵庫にある食材や事業所の畑で採れた野菜を使い、その日の食事作りの担当職員が献立を考えておられる。2階ユニットには、調理担当の職員がおられる。2階ユニットでは、パン食を好まれる利用者もあり、朝食の主食はパンとご飯が選べるようになっている。調査訪問時、お好み焼き用のもやしの根とりをされる利用者の様子がうかがえた。1階の昼食は、利用者のご希望もありお好み焼きを作っておられ「ここのお好み焼きは最高に美味しいよ」と、手が思うように動きにくい方も、ご自分で箸を持ち、食べておられる様子がうかがえた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 24時間記録用紙にて、食事量・水分量の確認、チェックをしている。夕方までの時間に水分が不足する場合は、寒天等で水分を確保している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 寝たきり・口から食事を摂取出来ない方においても食後の時間帯に歯ブラシ・スポンジブラシ等で口腔ケアを行っている。昼食後の口腔ケアが全員の方に対してはできていない。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	
			立位の取れない方においても2人での介助を行い、トイレでの排泄を行っている。歩行できる方は紙パンツでトイレ介助を行う。	
			(外部評価)	
			利用者個々に排泄チェック表で排泄パターンを把握して、トイレ誘導されている。介護度重度の利用者で紙おむつを使用されている方は、排便が困難だったが、トイレに座ることをすすめ、腹部マッサージを続けることでトイレで排便ができるようになった例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	
			寒天、果物、野菜ジュースを取り入れた水分摂取の機会を増やしたり等、食事の取り方を個々に合わせて努力している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	
			体調を見ながら入浴してもらえるように心がけている。個々の要望に応じて、入浴の好きな方は毎日でも入浴してもらえるよう支援している。温泉に行きたい希望の方に対して、月に1回は近所の温泉へいけるように支援している。	
			(外部評価)	
			2日に1度は入浴できるよう支援されている。座位の難しい方については、洗い場にマットを敷いて、利用者の体に負担がかからないようにして体を洗ったり、シャワーを浴びることができるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	
			利用者様のその時々状況に応じ、居室や畳コーナーを利用し休息を取っていただけるよう支援しています。夜間不眠になりがちな方には昼夜逆転にならないように配慮しながら休息を取っていただける取り組みも必要と感じます。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者それぞれの既往歴の把握やそれに応じた服薬・副作用の理解について全スタッフがより理解できるよう努める必要があると思います。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) それぞれの残存能力や生活歴を把握し、一人一人に合わせた役割や楽しみ事を持った生活を送っていただけるよう支援に努めています。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人の希望を踏まえ、御家族のご協力も得ながら、できる限り出かけられるように支援しています。	
			(外部評価) 利用者から「ドライブに行きたい」と希望がある時は、その時にかけられるように努めておられる。近くの公園に季節のお花を見に行ったり、最近では見奈良のコスモスを見に外出された。多くの利用者から「にぎりずしが食べたい」という希望があった際には、全員で出かけられ、胃ろうの方も一緒に外かけて雰囲気を楽しみながら、プリンを食べたようである。暑さが厳しかった今夏は、外出を控えておられたが、夕方の涼しい時間になってから事業所の庭を散歩する等、外に出る機会を作るよう心がけて取り組まれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一部の人ではありますが、一人一人の能力に応じ、それぞれにお金を持ったり、その時にお金をお渡しし、使えるように支援しています。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者から希望があれば、ご家族へ連絡をしてお話しいただいている。また、携帯電話を持っている方はご家族より連絡があったりし、話されたりできるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) トイレなどは分かりやすく貼り紙をして対応している。食堂・リビングには生花を飾り、楽しんでもらっている。また、四季に応じた利用者様の写真なども貼り、また、四季節句（ひな祭り・月見・七夕など）し、楽しんでもらっている。音楽鑑賞などもして頂いている。	
			(外部評価) テーブルの上には、コスモス等の季節の草花が生けられていた。壁には、季節ごとに、行事や外出時の写真を大きくプリントして貼ってあった。2階ユニットには、水槽に金魚を飼っておられ、利用者が餌やりをされることもある。1階ユニットでは、新聞を読まれる利用者が小さなホワイトボードに、その日、気になったニュースを書いており、調査訪問時は、「チリ落盤事故70日目」等と書かれてあった。利用者は、午前中はテレビを見て過ごされることが多いが、一日のうちに少しでもお手玉や風船を使って、レクリエーションを行う時間を作るようにされている。訪問者用のスリッパは、子供用のスリッパも用意されており、汚れた物は取り替えるようにされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者さん自身が思い思いにソファにてTV見たり、話されたり、又、たたみコーナーやリビングの椅子に座られたりと自由に過ごされています。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族様の写真を貼ったり、花を飾ったりしています。また昔から使っていたタンスを置いている方もいます。	
			(外部評価) 仏壇や遺影を置かれている方がおられたり、ご家族が観葉植物を持って来られている方の居室もうかがえた。2階ユニットは、日中も居室で過ごすのがお好きな方が多く、居室でお茶を飲むことができるように急須等にお茶を入れて置いてあった。多くのおむつ等の介護用品を置いておられる居室については、収納の仕方等、配慮や工夫をされてみてはどうだろうか。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 各居室の入り口やリビング・廊下・トイレなど必要なところに手すりやスロープを設置している。	